

佐事研だより



佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 森 清隆

会員各位

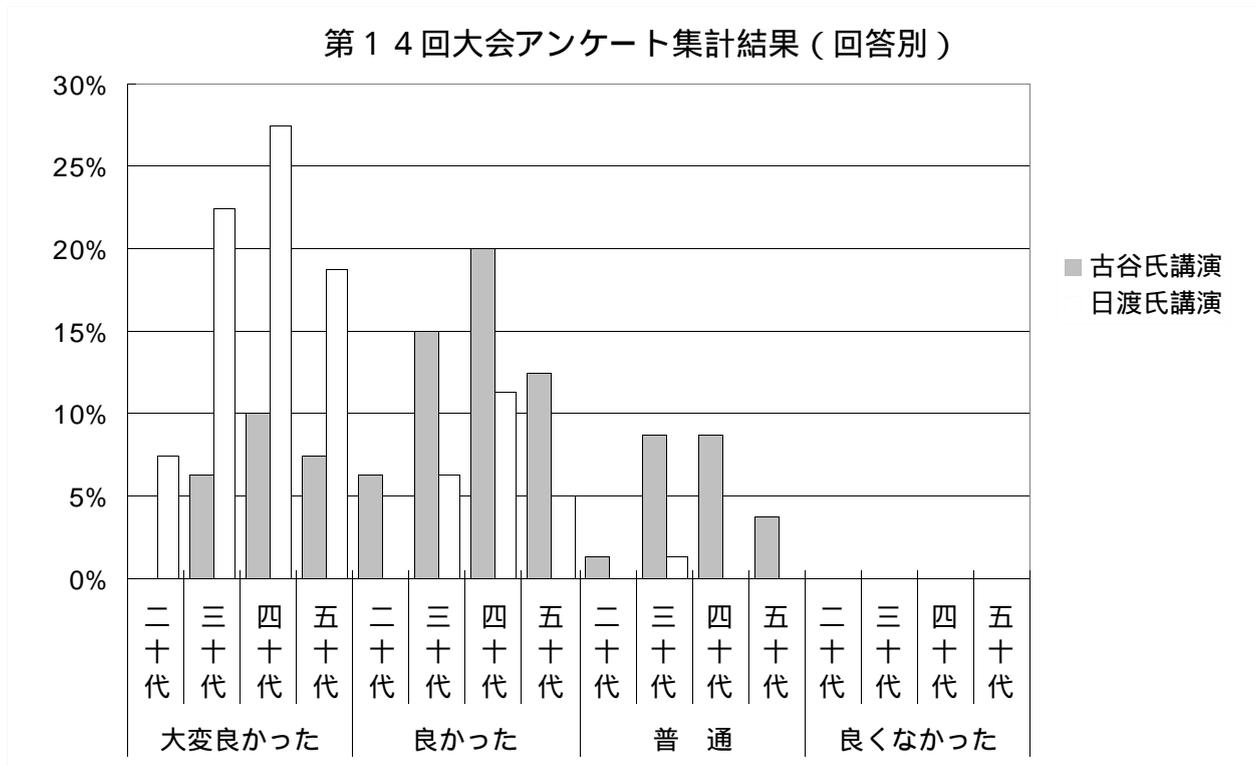
会員の皆さま、第14回研究大会お疲れさまでした。夏本番が目前となりました。暑さにはお気をつけください。

さて、第3回理事研修会は8月下旬にアバンセにて開催予定です。秋の研究大会は、10月29日(水)に同じくアバンセにおいて開催されます。

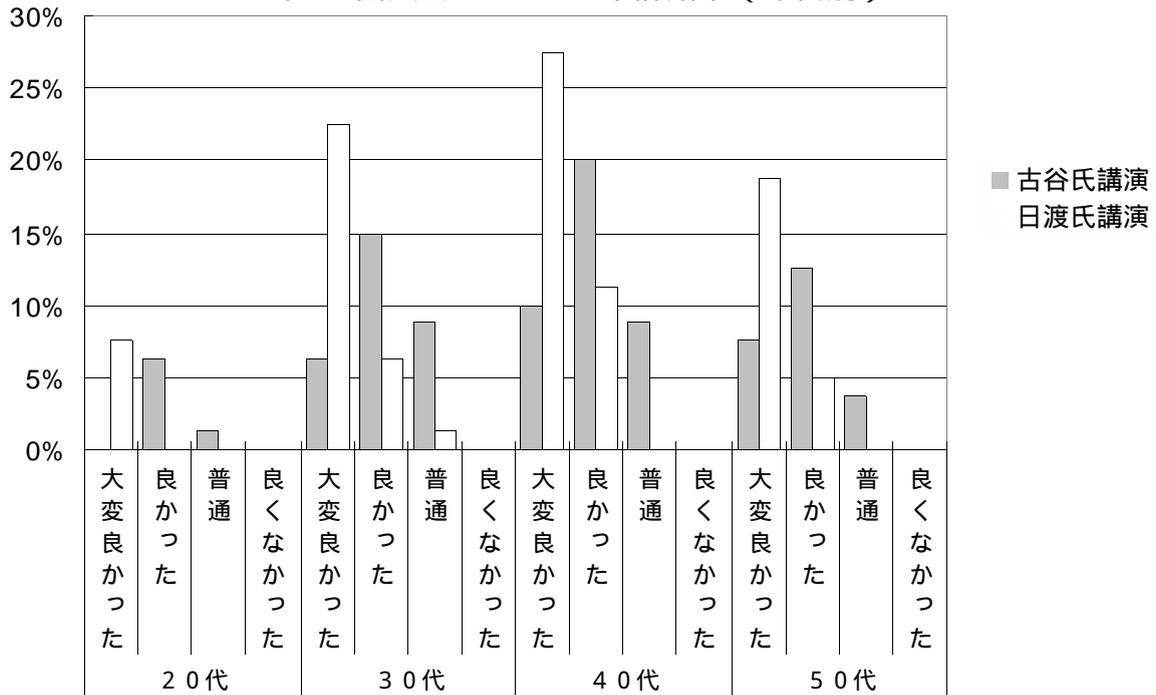
今年度の「佐事研だより」の担当は、順番に、(鳥栖市・神埼郡・佐賀市)、(佐賀郡・小城郡)、(唐津市・東松浦郡・杵島郡)、(武雄市・伊万里市・藤津郡)です。その他については調査広報部長にて行います。よろしくお願いします。

第14回 大会アンケート集計結果

大会アンケート集計にご協力いただき、ありがとうございました。今回の特別講演・記念講演は、なかなか好評のようでした。



第14回大会アンケート集計結果（年代別）



第14回大会アンケート集計表

年代別 回答	20代	
	古谷氏講演	日渡氏講演
大変よかった	0	6
良かった	5	0
普通	1	0
良くなかった	0	0

年代別 回答	30代	
	古谷氏講演	日渡氏講演
大変よかった	5	18
良かった	12	5
普通	7	1
良くなかった	0	0

年代別 回答	40代	
	古谷氏講演	日渡氏講演
大変よかった	8	22
良かった	16	9
普通	7	0
良くなかった	0	0

年代別 回答	50代	
	古谷氏講演	日渡氏講演
大変よかった	6	15
良かった	10	4
普通	3	0
良くなかった	0	0

年代別 回答	合計	
	古谷氏講演	日渡氏講演
大変よかった	19	61
良かった	43	18
普通	18	1
良くなかった	0	0
	80	80

参加者数	221
アンケート提出数	80
県内	72
県外	8

以下は、大会アンケートのコメント欄です。

古谷氏講演より

県内

20代：具体例（協議会の状況等）をもっと話してもらいたかった。

20代：ややお話が抽象的すぎたかな。

20代：市町村合併にいたる背景は分かりやすかったが、学校は？教育行政は？？

30代：合併についての前提的なお話で大変良かった。

30代：市町村合併は、共同実施の考えと似ていると思う。小規模（学校に1人）ではできないことも、合併（共同実施）により力をつけることができる。

30代：話の内容がむずかしかった。合併の理想論ばかりで、現状説明、問題点などが見えてこない。

30代：自分から情報を求めるという点では、私自身が努力していなかったなと思いました。（市町村合併についての情報収集について）

30代：何度か聞いた事もあるが、今回は「もう目前にせまっている事」という意識のためか、期待が大きかった。資料を見る限りでは、期待はずれな気もしたが、講話は判り易かった。

40代：大変わかりやすく説明していただきました。

40代：もう少し、つっこんだ話を期待していた。

40代：できれば学校教育についての動きなどを説明してほしかった。

40代：市町村合併が要点良く説明されており大変勉強になった。

40代：もっと突っ込んだ内容も聞きたい。

40代：もう少し前論ではなく一町民として今後の（具体的なもの）ことを聞きたかった。自分で勉強すべきですが、手がかりとして。

40代：合併により学校関係の諸規定整備のチャンスとしていく方法のヒントがあればと思ったけど・・・。

40代：当事者の方から詳しい説明が聞け、こういうことだったんだとよく理解できた。

40代：概論的ではあった。具体性に欠けるが、初めての話題で、十分参考（勉強）になった。

40代：たいへんわかりやすく話をしてもらった。実際に煮つめていくと総論賛成、各論反対になりそうですね。佐賀市郡はとまったままだし。

40代：市町村合併の原点、なぜ合併か？行政システム受益と負担の一致等の説明が良かったと思う。

50代：すっきりとわかりやすかった。

50代：もうちょっと突っ込んだ話が聞きたかった。

50代：基本的な事柄についてはわかりやすい講演でした。教育に関わる部分についての動きも、情報がほしい。

50代：合併協定項目のうち教育に関するものは、積極的に発言をしてよりよいものにしていかなければならないと思う。例えば、小・中学校管理・運営規則等。

50代：教育分野について、もっと詳しく聞きたかった。

50代：学校はどう変わるかなと心配はありますが、勉強になりました。

県外

30代：知らないことが自分自身多いと思いました。

30代：なぜ合併なのか？よくわかりました。自分としては、各市町村の独自性が失われるようで合併しないほうがいいのに、と思っていたので、考えをあらためさせられました。

30代：合併する良さ（良い点）がわかった。

40代：市町村合併への流れが少し理解できた。

40代：何のための合併か、については行政サイドの説明としてはわかったが、学校現場からの実感は今一歩だった。

50代：具体的な例を聞きたかった。

日渡氏講演より

県内

20代：展望が少し明るくなったと思った。

20代：ユーモアを交えた素晴らしい講演だった。又来られたら是非お話を伺いたいと思った。

20代：とてもわかりやすかった。それだけに危機感も強くなったが。

30代：私的な意見も聞けて為になった。時間不足でした。

30代：最新の情報が聞けてよかったです。自分の学校でも、一生懸命仕事をしようと思いました。

30代：自分の勉強不足を痛感しました。こういう機会を設けていただいたことに、ただただ感謝して

います。

- 30代：身近な事にばかり目がいて、自分達の未来が大変な事になってるなんて、大した事ないと思った訳ではないけど、油断しすぎていたんだな、と考えさせられた講演でした。
- 30代：説明がわかりやすかったです。
- 30代：能力等級に対して、非常に恐怖感をあおられました。自分は給料減るかも（笑）。
- 40代：とてもためになりました。
- 40代：現場の事務職員の頑張りを新公務員制度新給料表に反映させる事ができるかは、県当局に入る人間がいないと厳しい状況であるのが見えてきた。
- 40代：細かな点まで良く理解されていると感じた。
- 40代：前回に引き続き時間いっぱい、エネルギー、キレ味鋭く話していただきました。住民主体の発想、情勢の見方、これからの仕事への厳しさが深まりました。本当にありがとうございました。
- 40代：一人ひとりの事務職員の意識改革が求められていることを痛感した。
- 40代：身につまされる思いを持って会場を出ます。
- 40代：もっと詳しく聞きたい。
- 40代：やはり将来の展望はむずかしいと感じました。
- 40代：事務職員ピンチ。本当に寝ないで勉強しないといけない！
- 40代：激変の時代、不透明な部分をどう読むのか自分自身わからない状況です。しなければならぬままの時何をしたらいいのか・・・深く考える機会になりました。
- 40代：能力等級などよく理解できた。たいへん厳しい内容で考えさせられた。
- 40代：最新の情報を聞かせてもらい、飽きなかった。
- 40代：時間は刻々とすぎ、予定通りに法整備等は準備されていく。知ってても何もしなければ、何も生まれず、将来がないということがわかった。
- 40代：前回同様、今回もすごく分かりやすい説明だった。職務遂行能力が現在の内容では低いことがわかった。どうにかできないものか？
- 50代：大変時宜を得た講演でした。参考になりました。
- 50代：わかりやすい話し方、示唆に富む内容でおもしろかった。
- 50代：新公務員制度を読みくだいて説明されたのがよかった。
- 50代：話し方が上手で、とても良く判った。私たちの前途が厳しい状況であるとヒシヒシと感じた。
- 50代：難しい問題ですが、わかり易く問題点を絞って話して頂き勉強になりました。

県外

- 30代：わかりやすく、新公務員改革がよくわかりました。質問したかったこともハッキリしました。
- 30代：中教審の流れや最新情報など大変わかりやすく、「今まさに転換期である」という言葉が重く感じられました。
- 30代：何度か耳にし、詳しい話も聞いた公務員制度改革の話、今ひとつわからず「能力給」と思っていました。「能力等級」だとわかりました。聞けば聞くほど、難しい問題が山積みだと思いました。誰が私たちを評価するのか？表はどうなるのか？将来的に公務員として学校事務職として退職まで働けるのか？悩みながら、でも毎日一所懸命働いていきたい！とは思いました。
- 40代：公務員制度について大きな問題として考えていなかった面があったが、これからしっかり勉強していかなければと思いました。
- 40代：“気持ち”を伝える内容だった。具体的な施策はすべて住民（県民・国民）の気持ちで実行性を持つと思った。
- 50代：わかりやすく、考えさせられる内容でした。

ご意見・ご希望欄より

県内

- 40代：副教育長、市教育長の祝辞の中に学校事務職員に期待する言葉が盛り込まれていたことに身のひきしまる思いがした。
- 40代：1．いつもだが閉会（時間）は守ってほしい。2．質問の時間の確保、バタバタし、内容のつ

めすぎ。

40代：よっぽど皆でがんばらないと大変なことになると思います。

40代：唐津からは、アバンセの会場は遠いですが、施設は大好きです。

40代：全事研加盟の提案は突然のような気がします。確かに以前より話があったのですが、提案するという話が事前に地区にあってもよかったと思うのですが・・・賛成意見のみ用意されていたと感じました。

40代：全事研加盟の件については、総会議案書を前もって見るができなかつたのでビックリした。もう少し前もって知らせて欲しかった。

40代：総会行事の後、講演会（1本）午後半日の日程でお願いします。

40代：日渡 円氏の講演は佐賀県の制度を予想するうえでとても参考になりました。改めて自分の職を考え直す良い機会になりました。

50代：昼食の弁当は夏と秋の大会ごとに仕出し会社を替えてもらえませんか？

50代：開催日を5月中旬以降にお願いします。月初めは電算資料を出したとはいえ、諸手当等やその他の事実が発生し、その月の給与に間に合わせるための事務処理におわれます。

50代：全事研加入になって良かった。いつまでも井戸の中ではなく、全国と合流すべきであり、良い方向である。

県外

30代：夏季研修会にパソコン関係が多い（ふえた）のはなぜでしょうか？理論研が他にもあっているせいでしょうか？

30代：わざわざ来た甲斐があった大会でした。ありがとうございました。総会を講演の間にはさんであるのは、何か意味があるのでしょうか、県外から参加する方としては講演はかためてもらえたら助かりました。遠慮なく書きました。すみません。

40代：お疲れさまでした。とても参考になりました。ありがとうございました。

40代：なんでもありの状況（状況）の中で、“公務員”という概念が問われている。上記2つの講演のような気がした。

☆☆☆会員の皆さまへ（事務局からのお知らせ）☆☆☆

佐事研会長 森 清隆

「全事研加盟」に関する今後の取り扱いについて

会員の皆さん、毎日の勤務精励お疲れさまです。先の総会・研究大会には多数のご参加ありがとうございました。常任理事会を代表して感謝申し上げます。

今回の総会で懸案となっていた全国公立小中学校事務職員研究会（全事研）加盟の件が可決されたのは、皆さんご承知のとおりですが、今後の取り扱いについて常任理事会で協議しましたので、お知らせします。

加盟を決議した旨の一報は全事研本部に通知しました。「正式な加盟は負担金の納入が決まってから」ということになるものと常任理事会では推測していましたが、「加盟初年度の負担金は特例として全額ではなく一部少額でもよい」というのが全事研本部からの回答でした。

佐事研総会でも指摘されたとおり、加盟議案は承認されましたが、負担金の問題は、会費の変更＝規約の改正を伴うので、総会議決が必要です。

常任理事会としては、そのためだけの臨時総会を開催する意向は、今のところ持っておりません。最終的な結論は次回理事会で議論していく予定ですが、規約の改正は来年度の総会を待ちたいと常任理事会では考えています。

したがって理論的には、正式加盟は来年度ということにもなりますが、上記の「初年度は特例として全額ではなく一部少額でもよい」という点については、規約の改正等を伴いませんので、今後、「予算の範囲内で」という条件で、理事会で検討してみてもよいのではないかと、常任理事会では協議していま

す。これも理事会を通じて会員各位の意見を尊重しながら進めていきます。

なお、全事研は研究大会（今年度は山口県萩市で開催）と全事研セミナーの前日に各県代表者を招集して総会（評議員会）を開催しています。

加盟を議決したことで、佐事研にも正式参加の要請（代表は2名）がありました。前記のとおり、会費の問題は決定していませんが、「会費の問題は後回しでもよいから萩大会前日の全事研総会から正式参加してほしい」というのが全事研本部の要請です。

常任理事会は、正式に参加するメリットが大きいこと、加盟の議決を得ていること、今年度の予算支出に関する議論はまだゆとりがあることなどの状況をふまえ、全国の仲間に佐事研をアピールする機会を積極的に利用したいと考え、今回の萩大会前日の全事研総会から正式参加していきたいと思えます。なお代表2名の人選については会長ほか常任理事1名を想定しています。

以上のとおりです。常任理事会は議論の内容や情報等を会員の皆さまに公開しながら、規約や機関決定、その前提となる会員の皆さんの意向を尊重し、この課題に対処していきたいと思っています。会員各位のご理解をよろしく願います。

*最近思うこと

先日、佐事研で日渡さんも言われていましたが、「今後の地方教育行政の在り方について」の諮問を受けて、平成10年9月に第16期中央教育審議会の答申が出ました。それから5年が経過しようとしています。

答申の第3章に【学校の自主性・自律性の確立について】があります。学校として一番関心があるところと思われる。下記は其中で私達に関わりがあるかなと思うものです。

佐賀市において

- ・ 学校管理規則の見直し
平成15年4月1日より新「学校管理運営規則」の施行
- ・ 主任制のあり方
平成15年4月1日に遡り事務主任が発令
- ・ 学校の事務・業務の共同実施
平成12年度より共同実施の実践研究
- ・ 専門的人材の活用

ALTの配置、スクールカウンセラー、アドバイザー、情報教育アドバイザー、心の教室相談員、放課後学習チューター事業等の活用

- ・ 地域住民の学校運営への参画
14年度より佐賀市フリー参観デー、佐賀市教育フェスティバルの開催
- ・ 学校評議員の設置
全校に学校評議員が設置

等が行われています。

他に**フレーム予算の実施、予算委員会の設置、民間委託による学校事務診断**も入っています。学校においては多種多様な業務が下りてきています。事務職員がその業務を単なる作業事務とするのか、またはその業務遂行に事務職員が関わることにより、学校の事務を再構築し、児童生徒、教師、そして学校教育にどう貢献できるのかが問われているようです。さて私達はどうか・・・？平成18年度からの新公務員制度での位置付けもその延長上にあるのではないのでしょうか。

【保険について考える】

皆さんは保険の見直しについて考えたことはありますか？

最近、弘済会以外にも保険会社の外交員の方が来校されたりして話を聞いているうちに、保険についても見直しが必要なのではないかと思うことがあり、よく人生のなかで家の次に高い買い物だと言われる保険についてももう一度考えてみたいと思えます。

いまや医療保険も様々で、医療保険一つを選ぶにしても商品群が溢れかえってそう簡単にはいかないようです。なかには保険料の支払総額が500万～600万円に達する商品まであります。安易に加入してしまうと、場合によっては使えない保険に大金をつぎ込んだだけという失敗もあり得ます。自分にとってどのくらいの保障が本当に必要なかを吟味することが肝心です。

具体的に医療保険を選ぶときには、どんな点を重視すればいいのか。ある保険コンサルタントは以下の5点を挙げています。

1回の入院で、何日分の給付金を受け取れるのか。

入退院を繰り返した場合、通算何日間保障されるのか。

入院した場合、給付金は何日目から支払われるか。

保険が、更新を必要とする定期タイプなのか、必要としない終身タイプなのか。

最終的に保険料をいくら支払うことになるのか。

特に注意したいのは といえます。というのも、保険期間のタイプが終身型か定期型かで保険料が大きく違って来るからです。例えば、更新を必要とする定期型では30代では2,000～3,000円台で済んでも、60～70代になったとたんに2万円台に跳ね上がってしまう商品が多い。病気のリスクが高まる時期に保険料が高くなると、肝心なときに保険料を支払えなくなってしまうというケースも十分あり得ます。問題は家計のバランスを崩さない保険料で最良の保障を得られるものを探し出すことです。

国内のある代表的な生保の医療保険で見ると、「終身型」「定期型」に比べ特約タイプの「更新型特約」「全期型特約」のほうが60歳になるまでは安い。これは主契約とセットで加入する分割安となっているからであるが、特約は主契約を解約すれば、保障も一緒になくなるなど不便な面があるので、医療保険を充実させたいなら単体商品がいいということになる。

単体商品で見ると定期型（掛け捨て更新型）はかなり割高となる。定期型では30歳で3,040円だった保険料が入院リスクが高くなる60歳更新時になると10,280円、70歳では19,250円に跳ね上がる。60歳で支払いが終わる終身型では一律9,250円、総支払額が333万円であるのに対して80歳まで支払う定期型でははるかに高い504万円になってしまうというケースもあります。単体の医療保険で考えるなら、終身型を選びたいものです。

また、新たな医療保険に加入はできない、そういう人は今加入している生保を組み直すのも手です。死亡保険金を必要最低限に絞り込み、浮いた保険料で医療保険を充実させることです。具体的には、まず死亡保障に高額な保険金が必要なのかという点です。予想される生活費や教育費などの総額から収入である年金、退職金、預貯金などとの差額が仮に3,000万円だとすれば、この部分だけを死亡保障でカバーすればいいこととなります。あるモデルケースでは、45歳、死亡保障5,500万円の「定期付き終身保険」、ガンなどの「特定疾病保障特約」、日額5,000円の入院「医療特約」付きの保険を解約して、運用実績によって死亡保険金が変わる「変額終身保険」と、年がたつごとに保険金が減っていく「逓減定期保険特約」のセットにし、日額1万円の入院給付型に加入し、念のため「傷害特約」もつけた。この組み直しの結果、今後60歳までに支払う保険料の合計は514万円になり、見直し前の約1,324万円から大幅に削減することができた。毎月の保険料は27,144円から28,539円に少々上昇しましたが、保険料の支払いは更新の必要もなく、しかも支払いは60歳までに終了し、医療保障は死ぬまで入院給付1万円が受け取れるようになりました。

このモデルケースでは特約として付けられていた「特定疾病保障保険」をばっさり切り捨てている。これは「生前給付型」とも言われる保険で、ガン、心筋梗塞、脳卒中の三大成人病になったときに一括して保険金が受け取れるものであるが、保険料が非常に高いのが難点である。70歳までの支払総額は600万～700万になるが支給される額は500万と保険金より多くの保険料を支払わなければならないうえに、決められた病気以外にかかった場合、支払った保険料はまるまる無駄になってしまう。これと同様なものにガン保険がある。これについても専門家は「あくまで家計に余裕がある人が加入するもの。60歳過ぎてから本当に怖い病気は循環器系や血管に関する病気で、それら多くをカバーできる医療保険を充実させる方が現実的」だという。

いま自分が加入している保険を見直して、自分は医療保険に何を求めているのか。どのタイプの医療保険を選ぶにせよ、まずは、そのことをしっかり自覚することが大事であると思われる。

くちょっと、息抜き どうでもいいような、雑学話>

一本3,000円の栄養ドリンク剤は、300円のもの10倍の効き目？

10倍の効き目がありそうだが、そうではない。

ドリンク剤のほとんどは、カフェインとアルコールをベースに、ビタミンや生薬成分などをブレンドしており、その成分の量や種類によって値段が違ってくる。

その人の状態によっては、多少の違いはあるかもしれないが、値段ほどには期待はできなさそう。だが、高い薬は効くと思って飲んだ場合、含まれている成分以上の効果を発揮することもある。医学用語で「プラシーボ効果」と呼ばれているもので、その気になるらしい。

マラソンの42.195キロの測定はコースによって誤差は生じないのか？

マラソンコースについては、片道、往復、環状などといった規程は特に存在していない。

コースによって上り坂、下り坂といった条件が異なるために、たとえ新記録がでて世界新記録、日本新記録といわず、最高記録という。

それでは、計測方法はというと、

測定回転輪によって道路の片方を測定、

自動車のメーターによって道路の中央を測定、

50～100メートルの巻き尺で道路の内側最短距離(30センチ)といった3つの測定法がある。

日本のマラソン競技では、ルール上なんとの方法を正式なものとして採用しているそう。ちなみに、このルールでは、公式として計測された距離が42.195キロの0.1%(42.195メートル)以下の誤差まで認められているという。

生きエビを送るとき「おがくず」を詰めるのはなぜ？

エビは水がなくても生きていくことができるそう。

そのたくましい生命力の秘密はエラにあるらしい。「エビの胸の内側にあるエラには細かい毛がはえていて、この毛が水を吸い込む仕組みになっている。エラが濡れていさえすればエラ呼吸は可能。水中でなくても動くことができる。」ということだ。

では、どうして“おがくず”なのか？

おがくずはエラの間隙を半閉状態にして、エラから出ていこうとする水分を保持する役目があるからだそう。

それでは、水分を保持するためなら、砂とかではダメなのか？

確かにエビは湿った砂の中でも生きていくことができるが、砂は重量があるので輸送するのが大変。おまけに、調理をするときに簡単に洗い流せない。

よって、おがくずの方が何かと都合がよいらしい。

(青春出版 もう止まらない、ちょっとした大疑問より)

《全国の研究大会情報》

大 会 等	期 日	会 場 等
平成15年度広島県公立小中学校事務研究大会	平成15年7月30日	広島国際会議場
第35回全国公立小中学校事務研究大会	平成15年8月6日～8月8日	山口県萩市民体育館
平成15年度沖縄公立小中学校事務職員協会研究大会	平成15年10月15日～10月16日	読谷村立文化センター
第40回宮崎県公立小中学校事務研究大会	平成15年10月23日～10月24日	新富町文化会館
平成15年度熊本県学校事務研究協議会研究大会	平成15年10月23日～10月24日	熊本市鶴屋ホール
第39回愛媛県公立小中学校事務研究大会	平成15年10月28日～10月29日	保内町文化会館
第15回佐賀県公立小中学校事務研究大会	平成15年10月29日	アバンセ
第34回島根県公立小中学校事務職員研究大会	平成15年11月6日	島根県民会館
第36回鳥取県研究大会	平成15年11月10日～11月11日	白兔会館・県民ふれあい会館
第12回大阪府公立学校事務研究大会	平成15年11月11日	エル大阪
第24回鹿児島県小中学校事務研究大会	平成16年2月12日～2月13日	鹿児島市町村自治会館
平成15年度東京都公立中学校事務職員会研究大会	平成16年2月24日	総合技術教育センター
平成15年度神戸市立小学校事務研究大会	平成16年3月8日	神戸市総合教育センター
第36回全国公立小中学校事務研究大会	平成16年7月28日～7月30日	高知県民文化ホール

大会情報等の詳細について事務局は関知しておりませんので、事務局への問い合わせは、ご遠慮ください。